

令和6年度

神戸リハビリテーション衛生専門学校

学校自己点検・評価報告書

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン 準拠

学校法人スマイル・アカデミー

1. 学校の教育目標

本校の目的は、「理学療法士及び歯科衛生士となるために必要な専門の知識及び技術を習得させ、併せて科学的知見と豊かな人間性を養い、社会の要請に応え得る有能な人材を育成すること」（学則第1条）としており、開校以来、多くの医療・介護分野の職業人を養成してきました。

私たちスマレ・アカデミーの願いは、卒業生が、現在の社会福祉に貢献すべく高い専門性と深い人間愛を兼ね備えた医療・福祉従事者として活躍し続けることです。

そこで、本校に在学中の学生生活を充実させることは勿論のこと、卒業後においても、「理学療法士」、「歯科衛生士」の国家資格を生かし、就業年数に相応しい知識・技術・見識を身に付け、職業人として、10年、20年先まで中心的人材として活躍できるよう、各種研修・研究の場を提供することのできる教育機関でありたいと考えています。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1) 理学療法学科に関して

学外教育では、スマレ会グループ関連施設の協力のもと臨床実習教育の維持に努める。学内教育では、授業計画で示した学習目標に到達できるよう対面授業と遠隔授業を効果的に配置する。また、学校説明会参加者の受験率や、退学者数の減少による在校生の進級率の引き上げに取り組んでいく。

(2) 歯科衛生学科に関して

学内教育では、実践と支援援助ができる歯科衛生士を育成するという観点からカリキュラムを編成している。実技科目には、それぞれ到達目標を掲げて学習を効果的に展開している。また、今年度より臨床実習が開始となり、幅広い知識、技術、態度、そしてコミュニケーション能力を身につけることができるよう引き続き取り組んでいきたい。また、学校説明会参加者の受験率や、退学者数の減少による在校生の進級率の引き上げにも取り組んでいく。

(3) キャリア支援講座

兵庫県指定の「認知症介護研修事業」を始め、「キャリアアップ研修」等、地域医療に根差したリカレント教育に取り組んでいく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1				
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。(専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1	本校の教育理念や目的を踏まえて、3つのポリシーを策定している。
学校における職業教育の特色は何か。	4	3	2	1	豊かな人間性および汎用的技能の獲得を重視している。
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構造を抱いているか。	4	3	2	1	超高齢社会、医療費高騰といった諸問題に対応できる人材の育成を目指している。
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	4	3	2	1	理念や目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー、アセスメント・ポリシーなどは、パンフレットやホームページで公開している。
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	3	2	1	各業界のニーズに沿って教育目標を設定している。

① 課題

・理学療法学科は、教育課程を可視化するためのカリキュラムツリーやカリキュラムマップを公開しているが、歯科衛生学科は公開されていない。

② 今後の改善方策

・学科毎にカリキュラムツリーやカリキュラムマップを策定して公開する。

③ 特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1				
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4	3	2	1	策定されているが、周知段階には改善の余地あり。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	3	2	1	中長期計画が策定されていない。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4	3	2	1	策定されており、機能している。
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	3	2	1	整備されている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4	3	2	1	整備されているが、連携面で改善の余地あり。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	3	2	1	整備されている。
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	3	2	1	国家試験の合格率、就職率、授業評価、シラバスは、ホームページやパンフレットにて公開している。
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1	教務システムを導入している。

① 課題

<ul style="list-style-type: none"> ・中長期計画が策定されていない。 ・学生数の減少を踏まえ、教職員に運営面での理解・協力を再認識してもらう必要がある。

② 今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体の収支状況の報告を徹底する。 ・来年度中に中長期計画を策定する。
--

③ 特記事項

--

3. 評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1				
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3	2	1	教育課程編成委員会で収集した情報を、教育課程の編成や実施方針等に反映している。
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	3	2	1	教育到達レベルおよび実習時間は確保している。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	3	2	1	カリキュラムは体系的に編成している。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	3	2	1	臨床実習施設への教員の関与を増やし、学内と学外で教育方針の一致を図っている。
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	4	3	2	1	実習は体系的に位置づけられており、十分な時間が確保している。
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	3	2	1	学期末毎に授業評価アンケートを実施し、その結果を教育内容の改善に生かしている。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	3	2	1	教育課程編成委員会にて外部関係者からの評価を取り入れている。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	3	2	1	各基準は明確になっており、学則で示している。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4	3	2	1	講義から演習、そして実習へと、分野毎の知識に対応する技術が習得できるよう科目を配置している。また、3年次には、国家試験対策セミナーを実施している。
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	3	2	1	各教員は担当する科目に関する分野の経験を有している。
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか。	4	3	2	1	関連施設から各分野のスペシャリストや学位取得者の確保に努めている。
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組みが行われているか。	4	3	2	1	関連分野の学会・研究会、教員講習会へ、積極的に参加している。
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	3	2	1	評価に基づき FD、SD 研修を実施している。

① 課題

・授業評価に基づく学内研修について、今後さらなる検討が必要である。

② 今後の改善方策

- ・実習巡回時を含め、外部関係者からの助言や評価の受け入れ態勢を強化する。
- ・授業評価結果に基づく学内研修を充実させる。

③ 特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1				
・就職率の向上が図られているか。	4	3	2	1	就職率は100%を維持している。
・資格取得率の向上が図られているか。	4	3	2	1	早期から国家試験対策セミナーを実施し、第59回理学療法士国家試験では、新卒者の合格率が100%であった。
・退学率の低減が図られているか。	4	3	2	1	情意面に対しては個人面談、学習面に対しては補講や個別指導を実施している。
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	3	2	1	活躍が把握できているのは一部である。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1	効果の把握が不十分で、十分に活用されていない。

① 課題

- ・卒業教育制度を利用もしくは共同研究を実施している卒業生に関する活躍や評価は把握している。しかし、その他の卒業生の近況の把握は不十分であり、卒業生対象のアンケートは実施したものの、学校の教育活動の改善に利用することができていない。
- ・進路変更による退学者が減っていない。

② 今後の改善方策

- ・同窓会を活用して卒業生の近況の把握に努めるとともに、卒業生対象のアンケートの活用を進める。
- ・進路変更の背景の一つに業務内容や学習内容に関するイメージの不一致がある。学校説明会や入学前教育において、これらの内容を明確に伝える。
- ・引き続き、国家試験の受験対策講座の強化を図り、合格率の維持・向上につなげる。

③ 特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1				
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	3	2	1	アンケートや個人面談を通してサポートしている。
・学生相談に関する体制は整備されているか。	4	3	2	1	年数回の担任による面談に加え、自由に相談ができるようオフィスアワーを示している。また、スクールカウンセラーを配置している。
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	3	2	1	教育訓練給付金制度や本校独自の奨学金制度、特待生制度、単位互換制度を整備している。
・学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	3	2	1	定期健康診断、保健室での応急処置、任意での予防接種を実施している。
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	3	2	1	学校行事や施設利用に関して支援体制がある。
・学生の生活環境への支援は行われているか。	4	3	2	1	学生が自由に活用できる演習室等のスペースを学内に確保している。また、県外の学生向けに寮を整備している。
・保護者と適切に連携しているか。	4	3	2	1	保護者への連絡およびアンケートは定期的に行っているが保護者会はない。
・卒業生への支援体制はあるか。	4	3	2	1	新人教育、研究指導、設備利用に関して支援している。
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	3	2	1	教育訓練給付金制度、学び直し支援奨学金、単位互換制度を活用することができる。
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4	3	2	1	仕事体験授業や職業体験講座等を担当し、中高生の職場体験に協力している。

① 課題

- ・保護者との連携が不十分である。
- ・委員会やクラブ活動といった課外活動が実施できていない。

② 今後の改善方策

- ・保護者会等、保護者と連携できる場を整備する。
- ・保護者対象のアンケートを継続し、情報収集を図る。
- ・委員会やクラブ活動といった課外活動が実施できる環境を整備する。

③ 特記事項

- ・保護者に対しては、各期の成績表を書面にて報告している。
- ・卒後のスキルアップ研修の場として、学内に研究教育センターを設置している。
- ・学生の研修を目的に、日本歯科衛生士会、兵庫県歯科衛生士会に学生会員として入会している。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1				
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	3	2	1	指定規則に従い施設・設備は整備されている。 各教室に Wi-Fi を導入し、学生の効率的な学習を支援している。
・学内の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	4	3	2	1	海外研修は実施していない。
・防災に対する体制は整備されているか。	4	3	2	1	設備の整備に加え、定期的に避難訓練を実施している。

① 課題

・海外研修を実施していない。

② 今後の改善方策

・海外研修の必要性を吟味し、企画・実行について検討する。

③ 特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1				
・学生募集活動は、適正に行われているか。	4	3	2	1	募集活動は、適正に実施している。
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	3	2	1	国家試験合格率、就職率、授業評価を伝えている。
・学納金は妥当なものとなっているか。	4	3	2	1	経済的な負担をできるだけ抑えるよう設定している。

① 課題

- ・医療従事者を養成する専門学校への進学についてイメージを持たれていない高校教師、保護者への対応が不足している。
- ・歯科衛生士の職業理解が不十分である。

② 今後の改善方策

- ・高校教師や保護者向け見学会や説明会を開催する。
- ・高校への訪問や、歯科衛生士会との連携により職業理解を促す。
- ・SNS等を利用して本校の特色を発信する。

③ 特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1				
・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	3	2	1	スマイレグループによる支援体制の下、財務基盤は安定している。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	3	2	1	適宜修正を行い、妥当なものとなっている。
・財務について会計監査が適正に行われているか。	4	3	2	1	監査法人による監査を受審している。
・財務情報公開の体制整備はできているか。	4	3	2	1	ホームページにより情報を公開している。

① 課題

- ・安定的な財務基盤を築くには、学生数の確保が最重要課題である。

② 今後の改善方策

- ・他校との差別化を図り、安定的な入学者数の確保に努める。
- ・学生数の動向や収入源を考慮した中長期的な財務計画を策定し、安定した財務管理を目指す。

③ 特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1				
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4	3	2	1	法令、専修学校設置基準、指定規則を順守し、適正な運営を行っている。
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	3	2	1	個人情報保護法に則り適切に管理している。取り扱いについては、説明の上、同意を得ている。
・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	3	2	1	自己評価後、問題点の改善が進んでいない項目がある。
・自己評価結果を公開しているか。	4	3	2	1	自己評価結果はホームページにて公開している。

① 課題

・自己評価により明らかになった問題点のうち、改善が進んでいない項目がある。

② 今後の改善方策

・自己評価で明らかとなった問題点は、関係各所で共有して対応にあたる。

③ 特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1				
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	3	2	1	中学生のトライやる・ウィーク、中学生高校生への出前授業、近隣住民への市民公開講座を行っている。また、他団体に施設を提供している。
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4	3	2	1	ボランティアの情報を収集して掲示している。
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練を含む）の受託等を積極的に実施しているか。	4	3	2	1	実施内容は特記事項に記載。

① 課題

- ・社会貢献、地域貢献として、中学生が地域で様々な体験活動をするトライやる・ウィーク、中学生高校生への出前授業を行っているが、近隣住民への貢献が不足している。
- ・市民公開講座を開催したが、広報不足により参加者数が少なかった。

② 今後の改善方策

- ・近隣住民に対し、健康指導や市民講座の開催に向けて、早期より本校の取り組みを様々な媒体（SNSや広報誌）を用いて広報し、参加者数の増大を図る。

③ 特記事項

- ・認知症介護実践研修事業、介護福祉士実務者養成機関の指定。
- ・関西理学療法学会、兵庫県理学療法士会の各種研修への協力。
- ・スマレ会グループ企業研修

3. 評価項目の達成及び取組状況

(11) 国際交流

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1				
・留学生の受入・派遣について戦略を持って行っているか。	4	3	2	1	留学生の受入・派遣はおこなえていない。
・留学生の受入・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	4	3	2	1	留学生の受入・派遣、在籍管理等の手続きは取っていない。
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4	3	2	1	留学生の学修・生活指導等を学内で実施できる体制は整っていない。
・学習成果が国内外で評価される取組みを取っているか。	4	3	2	1	学習成果が国内外で評価される仕組みは取っていない。

① 課題

・理学療法学科、歯科衛生学科ともに、留学生の受け入れや学修・生活指導等を学内で実施できる環境整備が不十分である。

② 今後の改善方策

・理学療法学科および歯科衛生学科において、留学生の受け入れや学修・生活指導等を学内で実施できる環境を整備していく。

③ 特記事項

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度は、昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行前に近い水準で教育活動を遂行することができた。

理学療法学科では、新入生歓迎会や体育祭などを通して、学年や学科を超えた交流の活性化が図れた。また授業では、対面と遠隔を併用することで継続した学びを提供することができた。臨床実習においては、関連グループの施設を始め関係各所の協力のもと、すべての実習生が施設での実習を遂行することができた。国家試験対策では、昨年度と同様にセミナーを早期より開始し、学習習慣を定着させることで新卒者の合格率 100%を達成した。このように昨年度までの経験を踏まえ、COVID-19 流行時に実施した環境の整備や工夫を活用しつつ、学校行事等での学生と教員との交流を含め、学生が充実した学校生活を送ることができるよう支援できた。

歯科衛生学科では、昨年度と同様、すべての授業を対面で実施することができた。学内での相互実習も、これまで通り感染予防に留意しつつ全ての授業を実施することができた。新人歓迎会では、学年を超えた交流の活性化が図れた。今後も学校行事等での学生と教員との交流を含め、学生が充実した学校生活を送ることができるよう支援したい。また、今年度より臨床実習が開始となり、歯科診療所とこうべ市歯科センターにて実習を遂行することができた。次年度は、学科完成年度であり、各学年に向けたさまざまな計画を遂行する予定である。今後の課題として、国家試験対策を早期より開始し、学習習慣を定着させ、1期生の国家試験合格率 100%を目指したい。また、同窓会を機能させて卒業生の動向を把握するとともに、卒業生および保護者との連携を強化したい。地域貢献としては、近隣住民への健康指導や市民講座を開催したい。これらの課題を達成するべく教員一同努力していきたい。